

4段階の液——即ち 1 gust, $\frac{1}{2}$ gust, $\frac{1}{4}$ gust, $\frac{1}{8}$ gust の4種の液で、10 c.c. 全口腔比較法により、6歳～60歳までの男女270名について閾値を測定した。

3. 1. 季節による変化は、酸味閾値と同様傾向を示し、夏季が最も閾値が低く、冬季は最も高い。

2. 性による変化は、酸味においては変化がなかったのに比べ、苦味の場合は女子の方がやや閾値が低いという結果になっている。

3. 年齢による変化は、酸味ほど顕著な差異はみられなかったが、年齢階層が高くなるにしたがい、苦味閾値はやや上昇の傾向を示している。

②A—52 味覚官能検査の生理学的基礎の研究
(第3報)季節・年齢及び性による苦味閾値の変化

奈良女子大 花岡 利昌
清水 増子
○飯道せつ子

1. 味覚閾値については古くから多数の報告があるが、その結果は必ずしも一致していない。これは味覚が他の感覚に比べて個人差が大きく、順応が早く、その他種々の条件の影響をうけやすいためと考えられる。しかるに味覚閾値は、近年広く用いられてきている食品検査(味覚テスト)にとって重要な事柄であるので、このテストの基礎的研究として、昨年以來各味の閾値を再検討しており、昨年は酸味についてその結果を報告した。本年は苦味について、季節・年齢・性による閾値の変化を研究したので、その結果を報告する。

2. 苦味物質としては硫酸キニーネを用い、Beebe-Center の 1 gust 溶液を基準にし、これを倍数稀釈した